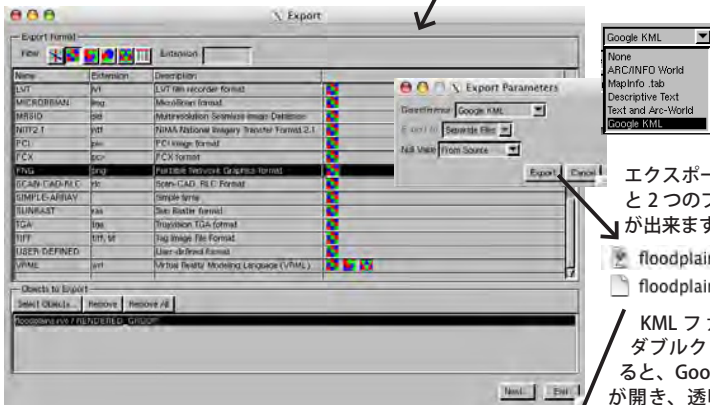
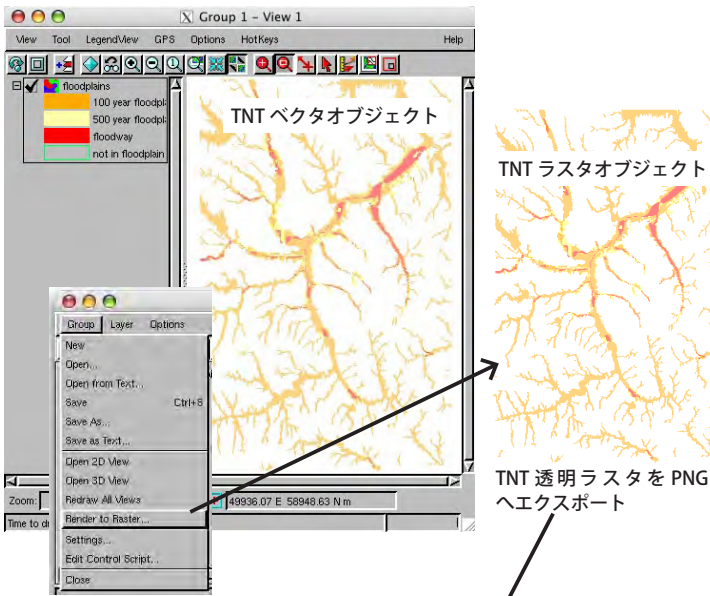


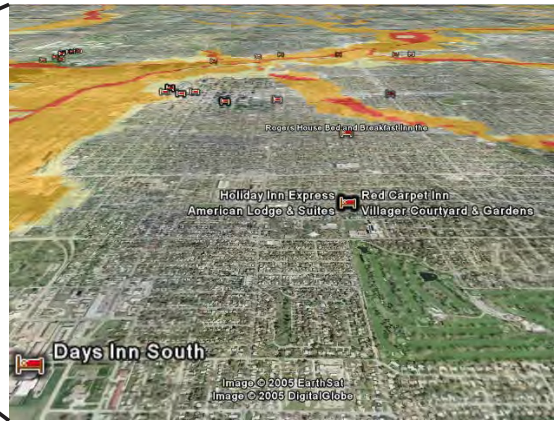
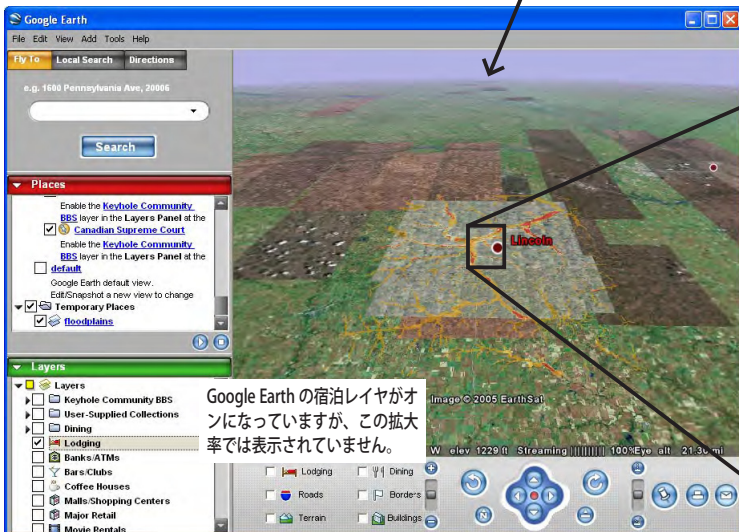
Google Earth 用のラスタ



エクスポートすると2つのファイルが出来ます

- floodplains.png
- floodplains.kml

KML ファイルをダブルクリックすると、Google Earth が開き、透明部分を持った PNG ファイルが正しい位置に表示されます。



Google Earth の画像上に TNT で作成した氾濫原と Google Earth の宿泊レイヤが重ねて表示されています。

Google Earth ではユーザのラスタファイルを選択して PC 上で自由に重ねることが出来ます。TNTmips や TNTedit で用意した様々なタイプの地理データオブジェクトから、Google Earth に重ねられるラスタを作ることができます。これらのラスタは、GIF (*.gif)、TIFF (*.tif)、PNG (*.png) か JPEG (*.jpg) 形式で、同じ名前のキーホールマークアップ言語 (*.kml) ヘッダーファイルが同じディレクトリになければいけません。KML ファイルには位置情報と、Google Earth がラスタをローカルレイヤとして使うために必要なデータが含まれています。

ベクタ、CAD、シェイプや他の TNT オブジェクトを上記の4つのラスタタイプのいずれかに変換することによって、オーバレイとして Google Earth に加えることが出来ます。PNG ファイルは透明性と圧縮性を持ち、8ビットカラー合成または32ビットのトゥルーカラー RGBalpha 画像として使えるので、PNG ファイルを使うことをお勧めします。PNG ファイルに変換された図形オブジェクトやピンマップ、他のオブジェクトは、この図に示すように図形要素以外の場所は透明になります。もしポリゴン要素や記号が部分的に透明色を使っている場合、それらも PNG ファイルでは部分的に透明になります。

どの TNT ラスタオブジェクトも、*.kml ヘッダーファイル付きでエクスポート出来ます。Google は公認のリストに新しい形式を加えるかもしれません。KML ファイルを出力するオプションは、JPEG2000 圧縮ラスタ (jp2)、MrSID (.sid) 等のようなラスタのエクスポート形式で選択出来ます。他のソフトウェアも、ARC/INFO ワールドや MapInfo TAB ファイルと同様に、位置情報を提供する手段として KML ファイルを採用するでしょう。TNT のエクスポート処理はいずれのエクスポートラスタ形式に対してもこれらの補助ファイルを作成します。

現時点で Google Earth が使う座標参照系は、平均海面上の標高値を持った 10 進法での WGS84 の緯度経度だけです。Google Earth に表示するのが目的であれば、この座標系でオブジェクトを作るようにしてください。あるいは変換してからエクスポートします。